

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇高校 福祉科 〇〇 〇〇

1. はじめに

今回、新学習指導要領の主旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践の機会をいただいた。5月に行われた全体説明のなかで、教科をとおしてどのような力を身につけさせたいかを明確化して授業を行うことや、知識伝達型の授業ではなく対話による授業の実践を行ってほしいと説明があった。自分の授業を振り返ってみると、網羅主義の授業になっており、生徒にとっては受動的で一方的な授業になっていた。また、これまで「単元をとおしてどのような力を身につけさせたいか」ということを考えて授業をしたことがなかったため、トータルで考えることが大変難しくしかし、それがとても重要であることに気がついた。今回授業実践を行ううえで、留意したことや研究協議で出た意見をまとめたいと思う。

2. 主体的・対話的で深い学びの授業実践を行う上での留意点

今回、8時間あるなかの6時間目を研究授業で実施した。本時を向かえるまでに、個人ワークやペアワーク、ゲーム感覚で行える授業展開など50分のなかで主体的に取り組めるような仕掛けを考えて実践した。本時は事例検討をグループで行い、これまでの既習知識を用いて答えを出すという内容で授業を行った。グループワークでは、話し合いをして終わりという形になりやすいため、ゴールイメージを持ち、ある程度誘導しながら授業を展開することが大切だと感じた。また、グループワークでは班によって意見が分かれるため、机間巡視を行いながら臨機応変に対応する必要がある。(グループワーク後の発表の形態等) また、発表時は結論だけを発表させるのではなく、話し合いの過程も含めて発表させることが重要であると感じた。

3. 公開授業の研究協議を終えて考えたこと

研究協議では、多くの意見をいただくことができた。以下は研究協議で出た意見である。

- ・グループワーク時の教師の役割を明確にする。
- ・知識を得てからのグループワークという流れだけでなく、グループワークをして知識を得るパターンもある。
- ・他教科との連携を図る。(家庭科、社会科、国語)
- ・支援者としての立場で学習するのか、生活者としての立場で学習するのかを明らかにする。
- ・事例検討やグループワークをどのタイミングで導入するかを見極める必要がある。
- ・グループワークをする際は、話し合った結果だけを発表するだけでなく、話し合いの過程も発表させる。

今回、研究協議のなかで授業のあり方や進め方、工夫の仕方について様々なご意見をいただくことができた。福祉科においては、国家試験に対応できる知識が必要でありそのためには、確実な知識の定着が必要である。どの教科においても主体的・対話的で深い学びをとおして授業を展開することができれば、興味関心を持たせながら生徒の知識理解を深めることができると感じた。今回の実践で見えた課題を学科間で共有し、教科福祉のどの科目においても実践できるよう努めていきたい。